

問1 インドで広く信仰されているヒन्दゥー教が、現地の人々の食生活や社会構造に与えている影響について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 山口公立入試 類似）

1. 牛を神聖な動物として崇めるため、牛肉を食べることを避ける習慣がある。
2. 豚を不浄な動物として遠ざけるため、豚肉を食べることは禁じられている。
3. 徹底した平等主義を掲げ、歴史的な身分制度であるカーストの影響を完全に排除している。
4. 一神教の教えに基づき、偶像崇拝が厳格に禁止されている。

問2 南アジアの自然環境について述べた次の文のうち、ネパールとブータンの地形的・地理的な共通点として正しい記述を選びなさい。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. アフリカ連合（AU）に加盟しており、サハラ砂漠の南側に広がる平原地帯に位置している。
2. ロシアと広大な国境を接しており、一年を通して寒冷な気候が続く広大な平原国である。
3. 海に面していない内陸国であり、ヒマラヤ山脈周辺の地震が発生しやすい地域に位置している。
4. 四方を海に囲まれた島国であり、モンスーンの影響による高潮の被害を最も受けやすい。

問3 中国、インド、ケニア、スリランカなどが世界的な生産上位を占める「茶」の生産背景について、その特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 大阪公立入試 類似）

1. かつての植民地支配の影響により、輸出を目的としたプランテーションでの栽培が発達した経緯がある。
2. 高度に機械化された大規模農業が中心であり、主に先進工業国での生産が盛んである。
3. 家畜の飼料としての需要が急増したため、広大な熱帯雨林を切り開いた牧場跡地で栽培されている。
4. 砂漠化の進行に強い作物であるため、降水量の極めて少ない乾燥地帯の貴重な現金収入源となっている。

問4 日本の輸入取引に関する統計資料において、2008年時点で魚介類および野菜・果実の輸入額がそれぞれ国内第1位であり、さらに2010年時点のアルミニウムの輸入額でも第3位となっている国はどこか、次の中から選びなさい。（2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 中国
2. アメリカ合衆国
3. オーストラリア
4. フィリピン

問5 2000年から2014年にかけてのアジアにおける通信環境の変化と、その特徴について述べた文として、最も適切なものを選択してください。（2016年 大阪公立入試 類似）

1. 携帯電話の契約数が急増し、固定電話の契約数を大幅に上回るようになった。
2. 固定電話の敷設が優先されたため、携帯電話の普及は北アメリカよりも遅れている。
3. 人口が減少に転じた影響で、2010年以降は携帯電話の契約数も減少している。
4. 経済格差の影響により、携帯電話の契約数はヨーロッパの合計を下回ったままである。

問6 マレーシアでは、1980年には石油や天然ゴムといった資源が中心だった輸出構成が、2023年には機械類が輸出総額の4割以上を占めるまでに変化しました。このような産業構造の変化をもたらした背景として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 青森公立入試 類似）

1. 日本企業をはじめとする外国の企業を積極的に誘致し、製造業を育成することで工業化を進めた。
2. 国内企業の独占を保護するために外国資本の参入を制限し、伝統的な農業や資源採掘に特化した。
3. 外国からの投資を断って自国の資本のみで重化学工業を興し、資源を輸出せず国内で消費する体制をとった。
4. 先進国からの経済援助をすべて農業技術の改良に投入し、天然ゴムなどの一次産品の輸出をさらに拡大させた。

問7 インドネシアは21世紀以降、漁獲量を急激に増加させ、2022年には約1200万トンに達しています。このようにインドネシアで漁業が大きく発展した背景にある、この国の地理的な特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 大阪公立入試 類似）

1. 数多くの島々で構成される広大な排他的経済水域（EEZ）を保有していること
2. アンデス山脈からの栄養分が流れ込む、寒流の影響を強く受けた海域であること
3. フィヨルドと呼ばれる複雑な海岸線により、波の静かな養殖の適地が多いこと
4. 広大な大陸棚を流れる長大な河川が多く、淡水魚の漁獲が中心であること

問8 東南アジアのある国では、1990年代末には原油などの資源が輸出の中心でしたが、近年では輸出総額の約4割以上を機械類が占めるようになってきました。このような産業構造の変化をもたらした背景として、日本企業の進出を促した現地の要因を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 福岡公立入試 類似）

1. 日本と比較して1か月あたりの平均賃金が極めて低く、安価で豊富な労働力を活用できたこと。
2. 原油の産出量が急激に増加し、燃料としての輸出だけでなく精製技術による工業化が進んだこと。
3. 日本企業の進出が減少したこと、自国の資本のみによる伝統的な軽工業が急速に発展したこと。
4. 農業の機械化が徹底された結果、米や天然ゴムなどの農作物の輸出割合が以前よりも大幅に高まったこと。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 牛を神聖な動物として崇めるため、牛肉を食べることを避ける習慣がある。	ヒンドゥー教では牛が神の乗り物として神聖視されており、殺生や食用を避ける文化が根付いています。一方で、歴史的には「カースト」と呼ばれる身分制度と深く結びついてきた背景があり、現在も社会的な影響が残っています。豚肉を禁忌とするのは主にイスラム教の特徴です。
問2	<b>答え 3</b> 海に面していない内陸国であり、ヒマラヤ山脈周辺の地震が発生しやすい地域に位置している。	ネパールとブータンは、インドと中国という二つの大国に挟まれた内陸国です。両国とも国土の多くがヒマラヤ山脈の急峻な山岳地帯に含まれています。この地域は地殻変動が激しい造山帯であるため、地震の発生が頻繁であり、過去にも大きな被害を受けてきました。選択肢にあるアフリカ連合への加盟やロシアとの隣接、島国といった特徴はいずれも事実と反します。
問3	<b>答え 1</b> かつての植民地支配の影響により、輸出を目的としたプランテーションでの栽培が発達した経緯がある	インドのダージリンやスリランカのセイロン、ケニアなどの茶の産地は、かつてイギリスの植民地であった地域が多く、ヨーロッパへの輸出を目的とした大規模農園（プランテーション）が作られた歴史的背景があります。現在もこれらの国々にとって、茶は重要な輸出用農産物となっています。
問4	<b>答え 1</b> 中国	日本にとって主要な輸入相手国である中国は、地理的な近さを活かして、鮮度が重視される野菜や魚介類などの農水産物を大量に輸出しています。また、工業化の進展に伴い、アルミニウムなどの金属資源の精錬や輸出においても、日本にとって重要な地位を占めています。
問5	<b>答え 1</b> 携帯電話の契約数が急増し、固定電話の契約数を大幅に上回るようになった。	アジアの多くの国々では、広大な土地に電線を引く必要がある固定電話よりも、基地局を設置することで広範囲をカバーできる携帯電話の普及が先行しました。この結果、2000年から2014年にかけて携帯電話の契約数は爆発的に増加し、固定電話の契約数をはるかに凌駕する状況が生まれました。
問6	<b>答え 1</b> 日本企業をはじめとする外国の企業を積極的に誘致し、製造業を育成することで工業化を進めた。	マレーシアなどの東南アジア諸国は、自国だけの資本や技術では不十分な段階において、日本などの外国企業に対して税制優遇などのメリットを与えて誘致しました。これにより、国内に工場が建設されて雇用が生まれ、技術が移転されたことで、資源輸出に頼る経済から機械類などの工業製品を輸出する経済へと大きく転換しました。
問7	<b>答え 1</b> 数多くの島々で構成される広大な排他的経済水域（EEZ）を保有していること	インドネシアは世界最多級の島々を持つ群島国家であり、それぞれの島を基点とした非常に広大な排他的経済水域（EEZ）を有しています。この広大な海域と、赤道直下の豊かな海洋資源を有効に活用するための整備が進んだことが、近年の漁獲量急増の大きな要因となっています。なお、ペルーなどで見られる寒流による好漁場や、ノルウェーなどのフィヨルドといった他国の特徴と混同しないよう注意が必要です。
問8	<b>答え 1</b> 日本と比較して1か月あたりの平均賃金が極めて低く、安価で豊富な労働力を活用できたこと。	東南アジアの国々では、日本の10分の1程度という低い平均賃金を背景に、生産コストを抑えたい日本企業の進出が激増しました。これにより、従来の資源輸出に頼る構造から、機械類などの高度な製造業を中心とした工業化が達成されました。この現象は「世界の工場」としての役割が周辺国へ広がった結果といえます。